

包括連携協定を結んで地域を応援

あおいニッセイ同和損保が豊橋市と

「地域密着」を行動指針に掲げている協賛会社のあおいニッセイ同和損害保険(ベルマーク番号 92)は、2016年から地方創生プロジェクトを立ち上げています。高齢者に優しいまちづくりや農業振興など、自治体が直面する様々な課題に対するサポートをするため、これまでに約170の自治体と協定を締結しました。ベルマーク運動も、こうした貢献活動の一つです。

同社の三河支店は6月8日に愛知県の豊橋市と包括連携協定を結びました。人口40万人の豊橋市には外国人が2万人いて、その約半数がブラジル人です。

三河支店豊橋支社にも7人のブラジル人社員が働いており、市内に暮らす外国人向けの交通セミナーや日本語教室を開催しています。その他、ブラインドサッカーの選手を招くユニバーサルマナーセミナーや多文化共生セミナーなど、保険会社ならではのノウハウを生かした支援を進めています。

市が進めているベルマーク活動への応援も始めました。支店の社員70人をはじめ、ベルマークサポーターに登録している代理店や団体などに6月から回収を呼びかけ、すでに100ヶ所ほどにオリジナル回収箱やポスター、ベルマーク一覧表を配布しています。10月21日に開かれる豊橋まつりのベルマークブースにも参加し、当日マークを持参してくれた人に景品を渡す予定で、集まったマークはすべて豊橋市に寄贈します。

同社では営損一体(商品売る営業と事故対応にあたる損害サービスの一体化)を目指しており、お互いの業務を知る際にもベルマークは役立っているといいます。中部損害サービス第一部豊橋サービスセンター所長の若狭弘幸さんは「ベルマークの話題がきっかけでお客様との会話が和やかになる事もあり、弊社にと

ってベルマークは欠かせない存在です。無理に集めるのではなく、捨ててしまうマークを少しでも減らしていきたい」と話しました。

豊橋支社長の鳥居大輔さんは「豊橋市は市内の小中学校の教育設備を向上させるため1000万点という高い目標を掲げているので、出来る限り協力したい。お客様にとっても、地元へ貢献できるという意識は大きいと実感しています」と熱意を語りました。



(左から)三河支店豊橋モーター開発課課長の中西寛之さん、三河支店豊橋支社社長の鳥居大輔さん、中部損害サービス第一部豊橋サービスセンター所長の若狭弘幸さん



協定書を手にする上島充弘三河支店長(左)と佐原光一豊橋市長

豊橋市のマーク、仕分けます

庁内障害者ワークステーション わくわく

愛知県豊橋市の市役所内にある「庁内障害者ワークステーション わくわく」が今年4月から、市が集めたベルマークの仕分けを開始しました。

わくわくでは、スタッフ6人と市の職員である支援員2人が各部署から依頼される書類の印刷や製本、通知文の封入、執務室などの清掃、データ入力など幅広い事務、作業をしています。市がベ

ルマーク運動を開始した2016年からインクカートリッジを仕分けてきましたが、開始から2年が経ち新たにベルマークの整理・集計も業務に取り入れることになりました。

3ヶ月に一度、教育政策課から袋いっぱいマークを預かって作業します。スタッフの金折さんは「種類が多くて分けるのが大変ですが、集まる量が多い会社はまとめて数えるなど工夫しています」。市内162の応援企業からも沢山のマークが届き、何時間も集中して作業する日もあるそうです。

支援員を務める豊橋市総務部人事課の森敬司さんは、「小さいマークがあったり、扇風機の風で飛びそうになったり根気がいる作業なので、期間を決めてスタッフ総出で頑張っています。一生懸命やっていると段々やみつきになりますね」と話しました。

わくわくで仕分けたマークは3000点ずつ市内の小中学校に配布し、設備助成に役立っています。



J1 コンサドーレで本の寄贈

ホームゲームでマーク集め大型絵本を6団体に

今期サッカーJ1リーグ上位で健闘している北海道コンサドーレ札幌のクラブハウス屋上で9月19日、ベルマークで購入した本の贈呈式がありました。コンサドーレのホームゲームの際に、来場者から集めたマークで買った本です。

本を贈ったのは、JAグループ北海道・株式会社コンサドーレ・北海道教育大学・北海道教育委員会の4者。地元の将来を担う子どもたちの成長を支援するため2011年度に相互協力協定を結び、「学力や体力の向上」「食育」などへの取組を始めました。2014年度からは札幌ドームで行われるコンサドーレの試合にブースを出してベルマーク収集の呼びかけを開始。北海道庁などにも収集箱を置き、昨年度末までの4年間で18万点近くを集めました。

本の寄贈先は、読み聞かせなど子どもの読書活動に関わっている道内の団体から公募。15団体が応募し、4者による厳正な審査の結果、6団体へ大型絵本の寄贈が決まりました。贈呈式には北海道コンサドーレ札幌の宮澤裕樹選手、進藤亮



佑選手、それに人気のクラブマスコット、ドーレくんも出席しました。宮澤選手は「今後も北海道の子どもたちのために読書推進の活動を続けてください」とあいさつ。本を受け取った団体側は「これからも頑張ります」とこたえていました。

札幌ドームでのマーク収集は、5年目となる今年度も続けられました。毎回マークを持参してくる年配の女性もいるなど、好調なチーム成績を追い風に、集まるマークの数も増えているようです。教育庁生涯学習課社会教育・読書推進グループの木幡淳史さんは「その分で年度内にもう1回、贈呈を計画したいです」と話していました。

ジョイセフが寄付募集

ベルマーク財団の「友愛援助」対象事業の一つ、「アフガニスタンの子どもたちへの保健教育活動」を実施している公益財団法人ジョイセフは、西日本豪雨で被災した女性や母子を支援するため、助産師を始めとする関係者と連携した活動を実施しており、そのための寄付を募集しています。クレジットカードや銀行振込、また「Yahoo! ネット募金」を通じてTポイントで1円(1ポイント)から寄付することもできます。詳しくはジョイセフのHPをご覧ください。

ウェブベル、店が3倍増!

ウェブベルマークのホームページが9月にリニューアルされ、買い物ができるショップ数が従来の約40から、出前授業も含めて129へと大幅に増えました。グルメ・ファッション・旅行など買い物の種類によってショップを探す検索機能も付いています。また、買い物額のうち、支援に回る金額の比率も変更されました。ショップの紹介画面では、購入額の何%が自分の指定した学校に入り、何%が被災校支援に回るのかが個別に明示されています。

大台達成校

9月				
綾瀬小	東京都足立区	8,009,171	町田第一小 東京都町田市	3,023,716
池上小	神奈川県横須賀市	8,044,609	矢口西小 東京都大田区	3,012,765
幸町小	千葉県美浜区	7,026,031	南丘小 大阪府豊中市	3,000,274
春山小	福井市	6,000,320	石井北小 松山市	3,010,876
杉妻小	福島市	5,002,857	八軒北小 札幌市西区	2,002,859
緑が丘小	宇都宮市	5,015,813	柏ヶ谷小 神奈川県海老名市	2,010,426
鳥山北小	東京都世田谷区	5,020,314	徳蔵寺保育園 大阪府東淀川区	2,001,957
川越第一小	埼玉県川越市	4,020,732	白岡市立西小 埼玉県白岡市	1,026,021
野々市小	石川県野々市市	4,012,413	四和小 千葉県四街道市	1,010,650
加古川小	兵庫県加古川市	4,037,634	向山小 東京都練馬区	1,004,399
大殿小	山口市	4,007,119	南鶴牧小 東京都多摩市	1,018,164
黒沢尻東小	岩手県北上市	3,012,502	中野小 相模原市緑区	1,037,309
行健小	福島県郡山市	3,022,577	東部中 愛知県春日井市	1,019,163
泉が丘小	栃木県宇都宮市	3,020,755	星陵台中 神戸市垂水区	1,017,694
町田第四小	東京都町田市	3,004,220	高森中央小 熊本県高森町	1,019,314